
とある冒険～星と星 時空と時空 運命の巡り合わせ～

ダイヤ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある冒険〜星と星 時空と時空 運命の巡り合わせ〜

【Nコード】

N3750Z

【作者名】

ダイヤ

【あらすじ】

ある世界でソニックがいつものように仲間達とそこら辺を走っていたらいきなり目の前に謎の穴が現れて皆を吸い込んでしまったソニックが目覚めると謎の世界が広がっていた。そして目の前には謎の女の子がそしてソニックは仲間を探すためその女の子と新たな冒険を始めるがその女の子にはある秘密がー！？
ソニックシリーズ大冒険！

プロローグ（前書き）

一回書いてみたかった冒険小説 良ければ見てください！

ブローグ

ここはどこ？

自分は誰？

周りにあるのは 闇 何処を見回してもすべて黒一色で他には何も
ない

自分という物がある感触はある

でも

自分の顔も 男なのかも女なのかもすべて

わからない

自分は誰？

じいぢぢい？

自分は何者？自分は誰？

すべてがわからない

どうしてこんなにもなにもかもがわからないのに自分がいるとわかるのか？

どんなに考えても考えられない

まるで

考えると言われるように

体も動かない 考える事も出来ない ここが何処なのかも 自分が
誰なのか全て

分からない

でもなんで自分がいるとわかる？それもわからない

わかるのは
闇

自分という存在

他には

何も

わからない

ここは謎の
闇

とある
闇

そして何処からか声が聞こえた

「お前は……だ……の……なんだ……奇跡の……だ……」

なぜか意識が朦朧としてところどころがかすれて聞こえない

「だぞ……必ず……だぞ……そして……必ず……必ず……」

何を伝えたい？何を言いたい？

何かが見えてきた

光だ

また声が聞こえてきた

「これからお前は……」

全部聞き取る前に光は自分を包みこんだ

そして

世界が変わった

闇から

光に

ここから

全てが始まる

プロローグ（後書き）

感想まっています（ってか下さい）

始まり（前書き）

この小説はソニックとオリジナルキャラの女の子が主役です

始まり

ここはとある草原そこには青い針鼠とその仲間達がいた

ソニック「今日もいい天気だねー！」

テイルス「そうだねソニック」

ソニックの言葉に返事を返す2本の尻尾を持つ狐マイルス・パウワ
ーことテイルス ソニックの相棒だ

ソニック「のんびり過ごすのもいいが最近暇だぜ」

テイルス「平和も良いことだよ確かに最近ひまだけど」

エミー「じゃあ私とデートしてー」

そう言ってソニックをデートに誘うピンクの針鼠エミー・ローズ
ソニックが大好きな女の子だ

ソニック「断るよ」

そう言って逃げるソニック

エミー「まちなさいー!!」

エミーもお馴染みのピコピコハンマーを取り出してソニックを追いつける

テイルス「やれやれ…」

テイルスも呆れながら二人を追いつける

ソニック「ここまで来れば安心だろ…ん？」

逃げてるソニックが見つけたのは白い穴 分かりやすくいうと小さな
めのブラックホールの白い版

ソニック「なんだこれ…」

ソニックがその穴を見ていると…

エミー「なに見てるの？」

テイルス「どうしたの？」

自分に追い付いた二人がいた

ソニック「H e y！二人共あれ見てくれ」

ソニックはそう言ってさっきの穴を指差す

エミー「何あれ？」

テイルス「穴…？」

ソニック「今見つけたんだ」

3人がそう言って穴を見ていると…

ゴオオオオオ!!

ソニック「!?!」

いきなり穴が大きくなって周りの物を吸い込み始めた

ソニック「な、なんだ!?!」

テイルス「うわわ!!」

エミー「キャー!!」

そして穴は完全に広がりソニック達を吸い込んで穴は消えた

ソニック「う…ここは…？」

ソニックが目覚めるとそこはさっきまでとは違い 色とりどりの
花が咲いている原っぱにいた

ソニック「ここは何処だ！？テイルス達は？」

仲間が居ない事に気付くソニック

ソニック「はぐれたか…探しに行くか」

そう言って原っぱを駆け抜けるソニック

ソニックが仲間を探しているとある一人の女の子が倒れていた

ソニック「お、おい大丈夫か？」

「……うう」

女の子は目を覚ましてソニックを見た

「……」
「助けてくれたのか？」

ソニック「いや、倒れていたんだ、大丈夫か？」

「……」
「ああ、平気だ」

その女の子の見た目と格好は見た目は紫色の針鼠でなぜか黒い羽根があり黒いワンピースを着ていて黒いブーツをはいている

ソニック「なんでこんな所で倒れていたんだ？」

「……」
「えつと……」

その女の子は思い出している

???「わからない…」

ソニック「へ？」

???「確か…何故か走っていて疲れて気を失ったんだ」

アバウトな説明にソニックも困っている

ソニック「まあ…仕方ないか…俺はソニックザヘッジホッグだ宜し
くな!!お前は？」

???「自分は…」

そう言って自分の名前を言おうとするが…

???「…わからない」

ソニック「…え？まさかお前…」

「???」記憶がない…なにかも…何も思い出せない!」

ソニック「なんて事だ…」

ソニックとその女の子はその場に立つたままだった…

続く

始まり（後書き）

感想待ってまーす

記憶のない少女

ソニック「記憶がないなんてな……」

???「すみません」

ソニック「いや、いいさ」

???「……」

ソニック「じゃあ、これからは気をつけろよ」

???「何処かいくのか？」

ソニック「仲間を探すのさ」

???「仲間を？」

ソニック「ああ」

ソニックはここにワープさせられた白い穴の事を話した

???「へえ…」

ソニック「じゃあな」

???「あ…あの…」

ソニック「？」

???「俺もついていっていいか？」

ソニック「へ？（こいつ俺系なんだ…）」

???「お前には助けて貰ったし…お前の仲間を探してれば記憶が戻るかもだし…」

ソニック「別にいいぜ、でもお前をなと呼べばいい？」

???「ん…」

考える彼女を見てソニックは

ソニック「リングでどうだ？」

???「は？」

ソニックの発言に目を丸くする

ソニック「手首にリングが付いてるしさ」

???「…」

彼女が手首を見ると確かに銀色のリングがついていた

ソニック「どうだ？」

???「いいぞ」

ソニック「よし！じゃあ宜しくなリングー！」

リング「ああ」

二人は握手をして仲間を探すそしてリングの記憶を探すための旅に出るしかしこれからソニック達が凄い冒険をするなんて誰も知るよしもなかった…

???「あいつを見つけた…至急作戦を実行する…」

木の上で誰かが無線機を使って話している

???「ああ…わかってるまた連絡する」

ぴっ

通信を切った音がした

「……まずは様子を見とくか……」

謎の人物はソニックとリングを見つめていた……

記憶のない少女（後書き）

一応今のところのリングのプロフィールです

名前 リング（仮）

年齢 不明

性別 女

身長 105？

体重 秘密

一人称 俺

性格

かなり男っぽい性格 ソニック同様挑戦的

これは今のところのリングのプロフィールです

クリスタル村と…（前書き）

今回は新たなオリキャラがでます

クリスタル村と…

ソニックとリングは仲間を探すために走っていたリングは走りはそのままで速くないが飛ぶとソニック並の速さになる

ソニック「お前は飛ぶとはやいな」

リング「ああ 何故かな」

そんなこんなで…

クリスタル村 オリジナル

ソニック「綺麗な村だな」

リング「ああ」

テイルス「ソニック!!」

ソニック「テイルス!!」

なんとクリスタル村にテイルスがいた

テイルス「誰？」

リングを見て不思議に思うテイルス

ソニック「こいつは…」

ソニックは説明をした

テイルス「へえ…」

ソニック「ところで此処が何処かわかるか？あの白い穴の事も…」

テイルス「実はまだわからないんだよ…でもここは異世界って言うことはできるよ」

ソニック「そうか…」

テイルス「僕はもう少しここで調べとくからそこら辺を走っていたら？エミーもこっちにいるだろうし…」

ソニック「そうするか…リングはどうする？」

リング「ソニックについてく…」

ソニック「じゃあ頼むぜテイルス」

テイルス「うん！！」

そしてソニックとリングは走っていった

ソニック「ここは…」

リング「…」

ソニック達は今森の前にいた

ソニック「いくとするか」

リング「…」

リングも頷いて森に入っていく

30分後

ソニックとリングは森の一番奥で休んでいた

ソニック「ふゝ…どうだなんか思い出せそうか？」

リング「…」

リングは黙って首を横にふった

????「見つけたぞ！」

ソニック リング「!？」

そう言つてソニック達の前に現れたのはカラスの男（ジェットの黒い版だと思つてください）

ソニック「誰だ？」

????「名乗る必要なんかない」

ソニック「リングの知り合いか？」

リング「知らない」

????「リングが名前か」

リング「いいや、これは仮の名前だ」

????「記憶がないのか」

リング「そうだが」

ソニック「そんなことよりお前の目的はなんなんだ？俺達になんか
ようか？」

???「おっと、確かにあんまり無駄話してる場合じゃなかったな
俺はお前ではなくお前に用があるんだ」

そう言つてリングを見る

リング「…」

ソニック「リングを知ってるのか？」

???「詳しくは知らないがな」

リング「俺になんの用があるんだ」

???「…」

リングが聞くと男は自分の背中にある銃を取り出して銃口を二人に

向けて言った

「???」ある方の命令によってリング!! 貴様を捕らえる!!」

クリスタル村と…（後書き）

感想待ってます

とある軍事企業（前書き）

今回は????の事が少しわかります

とある軍事企業

ソニック達は???の言葉にびっくりしていた

リング「俺を捕らえる!？」

ソニック「どういう意味だよお前!」

???「そのままの意味だ俺はリングを捕らえに来たそれでいいだろ?」

ソニック「よくねえよ!どうしてリングを狙う?」

???「お前わからないのか?そいつの価値を」

ソニック「はあ?」

???「ふん」

リング「人をまるでもの扱いして…名前も名乗らず失礼な奴だ」

???「まあそうだな…じゃあ教えてやるよ俺はブラック、ブラッ

ク・クロウだ」

ブラック・クロウと名乗る男そして二人に銃をむけるしかし二人が
ここであっさり諦めるわけがない

ブラック「あの時はぬかったがもうあんなミスはしない！」

ソニック「あの時？」

ブラック「言う必要ない」

ソニック「…」

ブラック「…」

ソニック「今だー！」

ソニックが一瞬の隙をついてリングを抱えて逃げ出した

リング「うわ!？」

ブラック「!待て!」

隙をつかれて必死に追い掛けながら銃を撃つブラックしかしソニックはそんなの慣れっこだ銃のたまを避けていく

ブラック「ちっ!」

ソニックの速さに敵わず差をつけられる

ブラック「ちっ…まあいいまだまだチャンスはたくさんある」

諦めるブラックと逃げ続けるソニック

森の入り口前

ソニック「ここまで来れば安心だろ…」

リング「とりあえず下ろしてくれ…」

ソニックにお姫様だっこされ顔を赤くしているリング

ソニック「ああ」

リング「ふう…」

ソニック「それよりあいつは何なんだ!？」

リング「わからない…」

ソニック達が悩んでいると…

「???」もう安心しきっているのか?」

ソニック リング「!？」

そこには先程引き離れたブラック・クロウがいた

ソニック「な 何故!？」

ブラック「こんな森で引き離れたとしても逃げそうな場所位わかる」

ソニック「なるほど…」

リング「お前は一体何者なんだ? どうして俺を捕らえる!？」

ブラック「俺とはある軍事企業のブラックスターズの幹部だ」

ソニック リング「軍事企業!？」

ブラック「リングはそのボスからの命令で捕まえろと言われていた
邪魔をするなら消えてもらう」

ソニック「へん! やれるものならやってみな!！」

リング「おい! ここは流石に危険だ! ! 相手は銃があるのに! !」

ソニック「…」

確かにと考えるソニック

ブラック「なら本当に消えてもらおう!」

銃を構えるブラック

ソニック絶対絶命の大ピンチ!!

とある軍事企業（後書き）

パラダイスの方更新したいけどネタが…

滅びた村と影の謎（前書き）

ソニックどうなる！

滅びた村と影の謎

ブラック「覚悟はできてるか？」

ソニック「…」

ソニックはなんとかならないかと考えているその時足下にあるものがあつたそれを見てそれを見てソニックは笑みを浮かべる

ブラック「死ね!!」

ブラックが銃の引き金をひくとソニックはリングの肩をつかみ…

ソニック「カオスコントロール!!」

しゅぱぁん!!

ソニックとリングは光に包まれて消えた

ブラック「な…!？」

そうソニックは足下にカオスエメラルドだったのだ　しかし何故カオスエメラルドがここ異世界にあるのか？　まあそこはおいといて…

しゅぱあん!!

ソニック「ふう…危なかった…」

リング「な…何なんだ今の!？」

ソニック「カオスエメラルドって言う奇跡の宝石を使ってワープしたのさ」

そう言ってリングに赤色のカオスエメラルドを見せる

リング「へえ…綺麗だな」

やはり女の子なのかカオスエメラルドに素直に反応した

ソニック「そっぴやとっさにここに来ちまつたけどどこ何処だ？」

今ソニック達がいるのは周りは物が散乱していたり家などはもう瓦礫の山と言ってもいいだろうもつと分かりやすくいうとあの白銀の針鼠の住んでいる世界の一部と言ってもいいだろう

リング「廃墟…？」

ソニック「滅びた村なのか…？」

ふとソニックが横を見ると看板があつたそこには…

滅び村

…と書いてあつた

ソニック「リング…そのまんまかよ！この村の名前！」

あまりにもそのまんまなので思わずリングまでもが突っ込んでしまった

ソニック「ここは滅びるためにある村か!!」

リング「…ん？」

ソニック「どうした？」

リング「あそこらへんから煙が…」

リングが指差す先には確かに煙があがっていた

ソニック「行くか」

リング「ああ」

二人は瓦礫の山をジャンプしながら煙があがっているところにむか
った

ソニック「これは…」

リング「…」

煙があがっている周りには謎の影みたいに黒くてバイオハザードに
でくるような犬がいたしかもたくさん（変な例えですいません）

ソニック「こいつらは何なんだ？」

リング「わからない…だが嫌なオーラを感じる」

犬「グギヤアアア！！」

犬がいきなりリングに飛びかかってきた！

ソニック「リング！」

リング「はあ！！」

ばし！！

犬「！？」

なんとリング回し蹴りをして犬はその場に倒れた

ソニック「お前強いんだな！！」

リング「…いくぞ」

ソニック「ああ！！」

二人は犬の大群に突っ込んで行った

滅びた村と影の謎（後書き）

次回は……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3750z/>

とある冒険～星と星 時空と時空 運命の巡り合わせ～

2011年12月17日21時47分発行